

基準日：2020年6月12日

基準価額が5%以上下落したファンドとその背景について（6月12日）

あおぞら投信株式会社

◆6月12日の基準価額下落について

弊社投資信託の基準価額は、6月11日（現地）の世界株式市況の下落、および為替市場における円高を受け、以下に掲げる公募ファンドにつきまして前日比5%以上の下落となりましたので、基準価額下落の背景となった市況動向等、および今後の見通しと運用方針につきご報告いたします。（株価相場、為替相場につきましては、別表をご参考ください。）

◆基準価額が前営業日比5%以上下落したファンド

ファンド名（以下、「本ファンド」）	基準価額	前日比	騰落率
あおぞら・徹底分散グローバル株式ファンド （愛称:てっさん）	10,251円	-635円	-5.8%

◆基準価額下落の背景となった市況動向等

・3月下旬に底値を付けた後、急速に反発していた世界の株式市場は、6月11日に大幅下落となりました。前日のFOMC（米連邦公開市場委員会）で、2022年末までのゼロ金利政策継続や量的金融緩和策の維持が明示されたことを受けて流動性相場継続への期待が強まった一方で、失業率が高止まる見通しが示され、米国経済の先行き不透明感が改めて意識され、短期的な過熱感/高値警戒感による利益確定の売りにより、アジア株式市場や欧州市場は総じて大幅下落となりました。

・米国では、FOMCの悲観的な経済見通しを受けて投資家のリスク選好姿勢が後退する中、米国での新型コロナウイルス感染者数が200万人を超え、早期に移動制限を解除したカリフォルニアやテキサス、フロリダ州で感染者が再び急増するなど、感染第2波の可能性が意識され始めたことを受け、経済活動正常化に向けた楽観シナリオを修正する動きが急速に強まり、経済再開関連銘柄とされた空運/航空機銘柄や小売株が軒並み急落したほか、米長期金利低下を嫌気した金融関連銘柄や原油先物の急反落を受けたエネルギー関連銘柄、機械など景気敏感銘柄にも売りが広がって、ダウ平均（ダウ工業株30種平均）の構成銘柄が全て下落、下げ幅も史上4番目となる前日比1,861ドル82セント（6.90%）安と3日続落となり、前日に史上最高値をつけていたハイテク銘柄を多く含むナスダック総合株価指数も5営業日ぶりの急反落となりました。

■本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。■本資料に示されたコメント等は作成時点の見解であり将来予告なく変更されることがあります。■本資料は弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。■「ご購入に際しての留意事項」を必ずご確認ください。

■表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

## ◆今後の見通しと運用方針

・失業率の急上昇や足下の経済成長率の大幅低下など、これまで起こったこと、あるいは現在起こっていることについて、市場は概ね織り込んだと考えられるものの、FRB(米連邦準備制度理事会)始め世界各国の中央銀行による大幅な金融緩和策や政府による未曾有の経済対策により、ハイテク銘柄中心のナスダック市場が史上最高値を更新するなど、株式市場は楽観的になり過ぎていた面は否めません。外食、小売り、レジャーや旅行など特定のセクターでは、ソーシャル・ディスタンスに対応しつつ収益を確保することが難しく、今後は経済再開によるファンダメンタルズの回復と、そうした厳しい現実の間で株価形成がされていくものと思われます。

・株式市場が反発に転じて以降、これまでどちらかという市場は明るい面だけにのみ注目していましたが、大規模金融緩和や財政政策などの好材料を概ね織り込んだ現在、今後は厳しい企業収益や経済実態や新型コロナウイルスの感染第2波への懸念、米中対立激化といった現実にも直面していくことと予想されます。当面は秋以降と予想される感染第2波の到来が最大の焦点となると想定されますが、一方で各国が全力をあげて取り組む治療薬やワクチンの開発も進んでおり、この感染症はいずれ終息するものと考えます。今回のパンデミック(世界的な感染拡大)によって引き起こされたこの歴史的な景気後退局面から最終的に回復する過程において、長期的な視野を持って株式投資を行うことで、その恩恵に与ることが出来ると考えています。

・3月の急落時にもご紹介したことですが、データが取得できる1926年以降に米国株式市場で起こった20%を超える下落の後には、1年後、3年後、5年後のいずれの期間においても長期の株式市場の平均リターンを超えるリターンをあげていることが分かっています。短期の利益確定に走る投資家がいることで、しばらくは変動がやや大きい局面が続くかもしれませんが、時間を味方につけることができる投資家が最後にはより大きな利益を手にすると考えられます。株価が下がれば長期的な株式市場の期待リターンは上昇するという基本的な考え方にに基づき、今後も各ファンドの運用の基本方針に基づき、しっかりと運用を継続して参ります。

(以下、別表)

### 【株式相場】

指数名称	6月10日	6月11日	騰落幅	騰落率
ダウ工業株30種平均(6/10-6/11)	26,989.99	25,128.17	-1,861.82	-6.90%
米国S&P500指数(6/10-6/11)	3,190.14	3,002.10	-188.04	-5.89%
英国FTSE100指数(6/10-6/11)	6,329.13	6,076.70	-252.43	-3.99%
ドイツDAX指数(6/10-6/11)	12,530.16	11,970.29	-559.87	-4.47%
日本TOPIX指数(6/10-6/11)	1,624.71	1,588.92	-35.79	-2.20%
上海総合指数(6/10-6/11)	2,943.75	2,920.90	-22.86	-0.78%

※現地通貨ベース(配当含まず)、小数点以下第3位四捨五入

### 【為替相場】

通貨名称	6月10日	6月11日	変化幅	変化率
日本円/米ドル	107.12	106.87	-0.25	-0.23%
日本円/ユーロ	121.85	120.74	-1.11	-0.91%

※為替レートは、米ニューヨーク市場17時時点のレート。(出所:ブルームバーグ)

※小数点以下第3位四捨五入、6月10日-6月11日

■本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。■本資料に示されたコメント等は作成時点の見解であり将来予告なく変更されることがあります。■本資料は弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。■「ご購入に際しての留意事項」を必ずご確認ください。

■表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。